

議会運営委員会所管事務 調査研修報告

委員長 多 賀 勝 丸

議会運営委員会は8月27日・28日の二日の日程で議会運営委員会の運営状況や議会活動や町の取り組み等について運営委員6名正副議長、事務局長の9名で、宮崎県臼杵郡美郷町と児湯郡都農町の二町で研修を行った。

■視察初日（8月27日（月））

美郷町の概要については、東臼杵南部地域にある、旧南郷村、旧西郷村、旧北郷村、の三村が平成18年1月に合併して誕生した町であると言う事である。合併の背景については、平成12年4月の「地方分権一括法」が施行され住民に身近な行政サービスについて市町村に権限が委譲される等、地方分権社会の到来、小子高齢化の進行、行政ニーズの多様化、高度化、広域化等、厳しい財政状況等々の社会背景から合併にふみきったと言う事である。

美郷町は宮崎県土の約6%を占め面積は448km²と広大であるが、その約95%が山林である。合併前の旧南郷村については耕地は総面積のわずか2%で昭和60年には農地の基盤整備は完了している。経済圏としては日向市と密接な関係にあり、茸、肉用牛、米

など農林業を中心にとって来たが全体的に地域の低下が進展している。就労の場として大きな比重を占める建設業も公共事業の縮減により規模縮小を余儀なくされていることから観光業を含む第三次産業への経済シフトが進んでいる。

旧西郷村は大規模な農業経営は望めない為に地域の特性をいかした産品作りを目標に農業経営の確立を図っておられる。林業も価格の低迷等による不振が続く新規就業者の確保が困難な状態である。

旧北郷村は昭和30年人口約5,700名をピークに平成12年には約2,000名となり過疎化減少は依然として進んでいる。又、公共交通機関は、平成12年9月に定期バスを廃止してその後代替バスの運行を行っておられる。通信施設は防災行政無線を全世帯に個別受信機が設置され、緊急連絡はもちろん行政連絡さらに農協、森林組合からの市況情報提供等生活活動に至るまで幅広く利用されている。医療については公設民営型の内科と歯科の診療所があり地域住民の健康維持が図られている。

美郷町の議会内容について

■視察二日目（8月28日（火））

は合併をしたため18年2月選挙が行われた。旧村が3村あった為に定数を旧村ごと4名とし12名の定数である、委員会の構成は、総務、文教厚生、産業建設の三つの常任委員会それぞれ4名で構成されている。議会広報特別委員会は総務常任委員と文教常任委員長の5名である。その他に予算決算等審議特別委員会、国道388号線整備促進特別委員会等の委員会がある。又、一般質問について毎回8名位が質問されているようで傍聴者は約10名位という事。合併して一年半きびしい財政の中、議会として役割をしっかりとやって行かねばと言う事であった。

都農町の研修については、まず議会運営に関する事等について事務局より説明を受けた。今回は議員定数を議会自身から議員発議により議員削減を全会一致で可決。16名の定数であったのを10名に削減。19年5月に選挙が行われ新議員が10名となった。しかし議員数をあまりにも削減した為に常任委員会も二委員会制になり、議員数が少なくなった



議会運営委員会調査研修

事により議会の活性がなくなった部分があるとの事でした。議会運営委員会は各常任委員長と委員4名で構成、議会運営委員会の所管事務調査を県外に一泊で毎年行っている。議会だより発行について運営の費用は議員互助会より支出、広報委員は議会運営委員の4名と副議長で予算は印刷製本は公費を使用、校正等は議会事務職員の方にも協力してもらっていると言う事である。議員数を削減した為に議会の役割が低下しないように活性化にむけ努力したいと言う事である。和水町も合併して約一年半、議会運営委員会として議会の活動向上に努めたい。

ズバリ聞きます！

9月議会・9人が一般質問



北原 芳史議員

学校教育と

統廃合問題について

問 本年度から導入された

二学期制について教育現場における反応はいかがか伺う。

答 時間数の確保という

面で、授業時数10%アップに対応することにつながっている。特に生徒への指導、三者面談等の時間がとれた。

問 少子高齢化が進む中、

和水町も色々な検討委員会で検討が行われているが、これから先どの様に進めていかれるのか、又、進み具合を伺う。

答 5年後、10年先を見据

え、大局的見地から子ども達の育成を願い取りまとめをしていきたいと考えている。

問 統廃合問題についての

懇談会の中で、「小学生や中学生の意見を聞いたら」とあ

ったが、その結果は。

答 今、小学校、中学校の

子ども達の声を具体的に聞く様に、アンケートを作り、聞く標準中です。

問 統廃合問題については

菊水地区と三加和地区では、多少の危機感や感心が違う様だがいかがか伺う。

答 温度差というのは確かに感じられる、平成26年までに7つの小学校のうち6校が、中央小学校を除いて、全部複式を迎える。合併前の菊水では既に、地区懇談会を行って来た。和水全体的方式を、町民が納得する様進めて行きたい。

問 統廃合を考える上で、

耐震調査の結果が急がれる所ですが報告書は出たのか伺う。

答 結果は10月に正式に出るが、業者の途中の連絡によると、補強等はある程度必要で軽微な補強で良いように報告を受けている。

問 教育現場における先生の指導力や不足等の報告は教

育委員会にあがっていないか。

答 2年前に一人あったが現在はない。

地域づくりと

農業振興について

問 地域づくりと農業振興

について旧菊水地区でも導入すると町長は答弁されているが、進み具合はどうか。

答 まずは町の職員を対象とした地域づくりのリーダー

育成協議が行われ、努力している。

問 農地、水、環境保全活

動支援を菊水地区の里づくり

に位置づけてはどうか。

答 現在19地域が取り組

んでおり、菊水地区14地区で進めており、地域全体の取り組みとし、地域づくりに連動出来ればと願っている。

問 地域づくりに職員の推

進チームを作ってはどうか。

答 地域のリーダー育成研

修を行い、菊水地域の職員の理解を深めていく必要がある。

地域も元気、町も元気になり、人も集まる、そんな和水町になるために、町長の意気込みを伺う。

答 若い人が少なくなっており、行政区の再編も今後考えながら地域づくりに取り組んでまいります。



農地・水・環境保全活動支援事業と里くみ風景(大田黒地区)

